



No. 35 (関西)共産主義者同盟政治機関紙 編集発行人 平等社 連絡先 大阪市東淀川区田川通3の16 萬建ビル内 平等社 TEL (301) 4555 (但し、5時30分迄) 料金 半年分 (12回) 200円 (郵送料込み)

原子力潜水艦寄港を阻止せよ!

国際ブルジョアジーの反革命連合粉碎の斗争を!

八月二日政府が、原潜寄港を承認する対米回答を強行したことは、全国に強い衝撃を与えた。その衝撃と波紋は広範であり、且つ深い。原潜寄港の安全論争の背景に、日米外交関係論争・日本核武装(改憲)が根強く存在し、その波紋を大衆の中に広げている。原潜寄港の安全性の問題をはじめ、原潜寄港が、核兵器日本持ち込みであり、日本の核武装に継がれるものであるという点は、広範な大衆を運動の中に引き入れるものであり、又原潜寄港が米極東軍事戦略の一環として、現在の東南アジア情勢に直接に対応するものであり、日本帝國主義の海外侵出の野望・日韓会談・帝國主義軍の強化・憲法改悪への直接的な契機となると云う点では、原潜寄港阻止斗争の深さを物語るものである。その点に於ては確かに「安保斗争を上回る斗争」を展開し得る性格を持つている。それ故に、池田内閣は「原水禁運動の分裂」「学生運動の展開不可能時期」「オリンピック」等を計算に入れて、コソ泥のように、受諾回答を行ったのである。

米帝戦略の末期症状

世界資本主義の生産力競争の新たな展開は、米帝の「社会主義圏」をも巻き込んだ形で増々激烈を極め、先進国市場分割(自由化)と後進国市場の再分割を軸として展開されており、東南アジア情勢はその軍事的噴火口である。ラオス・ベトナム・韓国等に於ては、それら諸国支配層による、最早その恒常的経済危機の打開を行いつつ、米帝の相対的地位の低下とドル防衛政策はその危機を増々深刻化させ、先進資本主義国の市場再分割競争の直接的な戦場と化している。この事は、それら後進国に於けるプロレタリア人民の反帝独立斗争を触発しているのであり、又その危機の帝國主義的打開策として各地で局地的戦争が展開されている。

八月四・五日トンキン湾事件は、ベトナムの前で風前の灯火となっている。グエンカンオン独裁に対する米帝の度々行っている空襲は、米帝の「社会主義圏」をも巻き込んだ形で増々激烈を極め、先進国市場分割(自由化)と後進国市場の再分割を軸として展開されており、東南アジア情勢はその軍事的噴火口である。ラオス・ベトナム・韓国等に於ては、それら諸国支配層による、最早その恒常的経済危機の打開を行いつつ、米帝の相対的地位の低下とドル防衛政策はその危機を増々深刻化させ、先進資本主義国の市場再分割競争の直接的な戦場と化している。この事は、それら後進国に於けるプロレタリア人民の反帝独立斗争を触発しているのであり、又その危機の帝國主義的打開策として各地で局地的戦争が展開されている。

① 去る九月六日、大阪の六つの報告提案を政治同盟(関西)共産主義者同盟中央委員会が開催された。出席者は、政治同盟及び全国の中央委員(たまたみ二名のみ、緊急の階級情勢により、出席は不可能)及び同盟書記局長である。会議は、三谷同志の経過報告に引つづき、中央委員会議長挨拶及び一般報告、労働戦線に対する同盟の組織路線、学生戦線に対する同盟の方針及び規約の改正と体制に関する報告の以上

② 本中央委員会における諸報告は、次号「共産主義」に一部分を除きその全文を掲載する。諸報告はこの間、わが同盟は、なによりもまじめにわが分裂と混乱の局面を乗り越え、豊かにならねばならぬと、奮然と握りしめ、既成左翼「指導部」の分裂と混乱がすすむにせざるを得ない状況にあり、地方における

全戦線の拡大へ一秋の階級的攻勢へ

全同盟の総力を結集せよ!

全最前線に同盟の旗幟をうちたてよ!

同盟中央委員会の開催と諸決定について

③ 本中央委員会における諸報告は、次号「共産主義」に一部分を除きその全文を掲載する。諸報告はこの間、わが同盟は、なによりもまじめにわが分裂と混乱の局面を乗り越え、豊かにならねばならぬと、奮然と握りしめ、既成左翼「指導部」の分裂と混乱がすすむにせざるを得ない状況にあり、地方における

④ 従って、地方における諸報告は、次号「共産主義」に一部分を除きその全文を掲載する。諸報告はこの間、わが同盟は、なによりもまじめにわが分裂と混乱の局面を乗り越え、豊かにならねばならぬと、奮然と握りしめ、既成左翼「指導部」の分裂と混乱がすすむにせざるを得ない状況にあり、地方における

⑤ 安保斗争と旧共産主義者同盟の総括をめぐっての論争は依然として諸潮流間に宿問のごとく存在している。だが今日、帝國主義の論とレーニン主義への党派性がその総括に対する回答であると考えられるものがあつた。彼らは旧共産主義者同盟が既成左翼の斗争の波のなかに日本新左翼の旗幟をますます鮮明にその存在を明らかにしてゆかねばならぬ。同盟書記局長は「その運動が誰の手で進められるか」という問題に於て、強固な基礎を打ち立て、激動期の飛躍的な発展を準備するものである。(九)

人民路線をとる以上、本質的に排外主義である。ベトナム問題に於いて、中共の「中間地帯論」なるものも結局のところ、仏帝のインドシナ再侵略の道を描き、南アジアに於ける革命斗争の展望を切り開くものにならねばならぬ。

現在、ラオス・ベトナムに於ける斗争は解放区の大規模内戦の中核部のマニラ・都市に於ける弾圧体制の動揺・プロレタリア権力の伸張という後進国革命の典型をなすものであり、徹底的な反帝斗争の中でプロレタリアの独自の斗争がいかにすすんでいられるかがその成否を握っている。中核部の諸君が云うように「代理戦争」と「かたづけ」のことによって解決されるのではなく、現実の反帝斗争がいかに徹底されるかを見る事であり、現在の情勢は、先進国(二面へつづく)

